

A 岩手県コース

天野由紀子（1978・法）

1 日目夜の勉強会で岩手県校友から聴いた話の中で最も印象的だったことは、この先復興には何十年という、とてつもなく長い年月を要するだろう、ということだった。当然といえば当然の内容なのだが、現地に暮らす人の発信する生の言葉として、あらためて重く受け止めた。たぶん私が生きている間は、東北は少しずつ元気を取り戻しながら、それでも苦しい困難な状況から完全に脱却することはないのだろう。だから私が生きている間はずっと、東北の人たちのことを忘れないでいようと思った。

社会福祉士として高齢者支援・低所得者支援に携わってきた私にとって、一番気がかりなのは、社会的弱者のことである。自力では生活の再建が困難な人たちが、それでも人として希望を持って生きていくためにはどんな支援があればいいのか、そして自分には何ができるのかを考えている。今回のツアーでは、それへの具体的な回答を得ることができなかった。この先、生きている限り忘れないでいて機会をうかがい、できることがあれば躊躇なく飛び込んで行こうと考えている。